



『若者のための<死>の倫理学』

三谷 尚澄／著 ナカニシヤ出版 114.2/ミタ/

辛いことばかりの毎日なのに、生き続けなければいけない理由とは。ボードレール、ニーチェ、森鷗外、西田幾多郎ら先人の苦悩と重ねつつ、現代を生きる若者たちの苦悩の本質を究明し、再生の道を探る。

『絵でみる江戸の人物事典』

善養寺 ススム／文・絵 廣済堂出版 281.04/ゼン/

徳川家康・春日局・大岡越前・八百屋お七・鼠小僧など、江戸の人物 80 人とそれに関連する人物 48 人について新説をまじえて紹介。カラーイラストと案内役・貸本屋善右衛門のユニークな解説で、有名人物たちの物語が楽しめる。

『13歳からの拉致問題』

蓮池 透／著 かもがわ出版 Z391.61/ハス/

なぜ北朝鮮は日本人を拉致したのか、残された家族はどんな気持ちだったのか、拉致された人は北朝鮮で何をしてきたのか。北朝鮮による拉致被害者家族である著者が、拉致問題について分かり易く伝える。



『「つながり」の進化生物学』

岡ノ谷 一夫／著 朝日出版社
481.78/オカ/

鳥も「媚び」を売る？ 隠したいのに、伝わってしまうのはなぜ？ 動物から人間の心と言葉、感情へと話題を広げながら、コミュニケーションの起源とこれからについて考える。埼玉県立川越高等学校での講義内容をまとめる。

『目でみることば』

おかべ たかし／文 東京書籍
812/オカ/

「阿吽の呼吸」「うだつが上がらない」「几帳面」「蓼食う虫も好き好き」「とどのつまり」「埒が明かない」など、40 のことばの由来となったものを写真で紹介。言葉の詳しい解説と関連情報も掲載。

『仁木悦子少年小説コレクション 1 灰色の手帳』

仁木 悦子／著 論創社 913.6/ニキ/1

ミステリブームを牽引した作家・仁木悦子のジュニア小説を集大成。1 は、初単行本化「灰色の手帳」、名作「消えたおじさん」など、小説 8 編、随筆 20 編を収録。夏樹静子による巻末エッセイも掲載。

『犬から聞いた素敵な話』

山口 花／著 東邦出版 Y913.6/ヤマ/

それぞれの飼い主と愛犬は、出会いや生き方、暮らし方も十人十色。ひとり暮らしの老人と犬、わが子と兄弟のように育つ犬…。取材でていねいに拾い集めた、“飼い主と愛犬とのキズナ”が感動を呼ぶ 14 話のエピソード集。

『モッキンバード』

キャスリン・アースキン／著 明石書店 Z933.7/アス/

銃乱射事件で、一番頼りにしていたお兄ちゃんを失った発達障害の女の子ケイトリン。だれも彼女の思いをわかってくれない中、ある言葉をきっかけに、ケイトリンは社会で生きるために大事なことを見つけていき…。